

令和3年度ひまわりパーク六本松事業報告

事業概要

平成24年六本松に事業所を開所以来、就労継続支援B型及び就労移行支援事業を行ってきましたが、事業所を桜坂へ移転するに当たって、B型事業は定員増を図り、就労移行事業は廃止しました。

令和3年度は新型コロナウイルス感染防止に取り組みながらアート活動・アートグッズ販売を中心とした就労収入の増、利用者の平均工賃の向上に積極的取り組みました。また職員の資質向上のため外部研修等にも積極的に参加しました。

1 事業所移転の経緯等

令和3年度は事業所移転という大きな出来事がありました。移転の経緯は入居していた六本松の家主から六本松の当事業所部分を医療ゾーンとして将来整備したいので桜坂に所有するビルに移転してほしいとの提案でした。提案では、移転先は六本松より事業所全体がかなり広くなること、事業所の設備や内装等は当事業所の希望等を踏まえて整備することでした。法人、事業所としてもアート活動等を中心とした事業発展のために広い事業所は必要であると判断し具体的な検討を始めました。移転にあたっては活動のしやすさ、設備の改善、交通の便など利用者、事業所の運営上の観点から検討を行った結果、移転が適切と思われる、理事会への報告とともに利用者、保護者へ概要を説明し理解を得ました。具体的な整備に当たっては、市の福祉のまちづくり条例に適合した施設整備に向けて施工業者等と協議を重ねました。移転先は事業所全体としては40%、うち作業室は20%程度広くなりました。事業所に面する道路から玄関までのスロープ、手すりを設置し、トイレは多目的トイレを整備し誰にでもやさしい施設となりました。また手洗い（シンク）は3か所に増やしました。さらにコロナ禍で求められる換気対策については作業室の両サイドに窓が並んでおり、風通しの確保が十分可能となり換気対策が各段に改善されました。

移転後の昨年12月からは新しい環境の中で活動を行い、利用者、保護者から事業所の広さや明るさ、設備などにおいて高い評価をいただきました。移転を契機に今後の積極的な活動が期待されます。

2 利用者状況

令和4年3月1日現在

項 目	内 容		
平均年齢	48.7歳（21歳～66歳）		
職員数	10名		
利用者居住区別	東区2、博多区2、中央区5、南区10、城南区7、早良区8、西区1、志免町1 計36名		
事業別利用者数・定員	利用者（定員）	男性	女性
就労継続支援事業B型	36（40）	22	14

3 年間開所日数及び利用者数（一日平均利用者数）

就労継続支援事業B型	254日	8,534人（35.5人）
就労移行支援事業	62日	49人（0.7人）

就労移行支援事業は令和3年8月1日付けで廃止。

4 事業別活動状況

（1） 就労継続支援事業B型（工賃向上を目指す事業）

B型利用者平均工賃実績（月額）

平均工賃月額	作 業 内 容
令和3年度 17,587円 （2年度 13,256円）	アート活動・アートグッズ販売（カレンダー、文具、バッグ他）・簡易作業（施設内での封入・封かん他）

B型事業所の目標として工賃向上を目指してアート活動・販売、簡易作業等に取り組みました。特にアート活動の事業発展及び利用者の平均工賃向上を目標に移転に合わせて定員増を市へ申請しました。B型事業の特定障がい福祉サービス（定員増）の承認を得るため、事業所主催の展示・販売会を積極的に展開し、さらなる就労収入の向上に努めました。事業所の就労収入の70％はアート活動・グッズ販売収入のため、今後ともアート活動、アートグッズ販売の売り上げ増を中心に工賃向上を進める必要があります。

① アート活動・アートグッズ販売

事業所の特徴であるアート活動は福岡市植物園等において表のとおり主催事業のアート展等を開催しました。

ピースプラントアート展 (植物園温室ギャラリー)	36 名全員 出展	ハイジをテーマに展示。展示と合わせてカレンダー等のアートグッズ販売
ピースプラントアート展 (アクロス福岡)	36 名全員 出展	ハイジのカレンダー原画展
ハイジの小さな祈り展 (ギャラリー大手門)	24 名出展	ハイジカレンダー原画、小作品の展示・販売

このほか、公募展への応募等を次のとおり積極的に行いました。福岡市障がい児・者美術展（コアサイド）、久原本家だんだんアート展、東北障害者芸術全国公募展などに応募し、入選や入賞した作品も生まれました。また3年度は福岡県がアートレンタル事業の募集を始めたため、当事業所の利用者8人の絵画が登録され、年度後半から県内の民間会社のオフィスなどに数点がレンタルされています。

アートグッズ販売関係では感染防止のため販売会等はコロナ禍以前より少ない状況は続いています。主催の植物園の展示・販売会等では毎日、販売を行い、売り上げを伸ばしました。また出品販売の際にスマートフォンで支払う決済を導入し、アートグッズを購入しやすい環境をつくり売り上げ増につなげました。カタログ販売では、新たな依頼先を開拓するなど売り上げを伸ばしました。

② 簡易作業

事業所内の簡易作業は封入、封かん作業を行っています。利用者は作業を通じて技術の向上や多くの納品を通して働く喜びなどを実感することができました。定期的な作業のほか6月から9月にかけてガス会社からの大量の封入・封かん作業を受託し、納品しています。このほか臨時的な作業も期限内の納品に十分対応できました。

移転後、さらに作業環境の整理整頓を行い、安全確保と効率的な作業の向上を図っています。

③ 在宅就労（在宅ワーク）

3 年度も感染拡大防止のため市から在宅就労継続が認められました。当事業所では在宅ワークとして利用者に応じた在宅でのアートの課題を提供しています。利用者の出勤日には描いた絵の評価や振り返りを行い、利用者に応じた在宅就労での効果的な動機づけとスキルアップに取り組んでいます。このことで利用者の自信と制作意欲につながっています。今後とも課題の提供など在宅でのアート活動を工夫する必要があります。

（2）就労移行支援事業

一般就労を目指す事業です。利用者が 1 名のため利用者に応じた支援を行いましたが、一般就労には結びつきませんでした。当サービスを希望するニーズもなく、8 月 1 日付けで事業を廃止しました。

なお、B 型事業の利用者で一般就労等を希望する場合は、必要な支援を行っています。

5 新型コロナ感染症対策

3 年度は新型コロナウイルスの感染防止のため事業所内の感染防止に努めるとともに時差出勤、在宅就労（アート）を継続して実施しました。事業所内では机上にパーテーションを配置し、特に昼食時及び歯磨きの際の飛沫防止等に努めています。また職員、利用者とも出勤前の検温、出勤時の検温を行うほか事業所内を定期的に消毒しています。移転後は窓が多く、換気しやすい環境を活かしてCO₂センサーを導入するなど換気の徹底に努めています。

また、職員は検温等の通常の健康管理のほか市提供の抗原検査キットによる検査等を実施し、感染拡大防止に努めています。

6 健康支援及び給食提供等

（1）健康支援（高齢化対策）の取り組み

毎朝の健康チェックによる健康状態の確認を行っています。また、毎月 1 回は体重、血圧等測定を行い、利用者の健康状態の把握とともに前月との変化等を利用者、保護者と情報を共有して健康支援に活用しています。このほか高齢化に伴う生活習慣病等の予防に向けて次の表の支援を行いました。

なお、外部講師による健康教室は感染防止のため実施できませんでした。

事業名	内 容	参加者数
よかドック同行支援（年１回）	福岡市のよかドック健診を活用し、近隣の内科へ職員同行で受診し、生活習慣病の予防や改善に努めています。	希望者 １０名
レントゲン検診同行支援（年１回）	保健所の集団検診を受診し感染性疾患の予防を図っています。	希望者 １１名
毎朝のストレッチ体操	ストレッチを朝礼時に毎日行い、健康予防と仕事への気持ちの切り替えに活用しています。	利用者 全員

（２）給食提供の取り組み

より安全・安心な給食提供を図るために、給食業者と連絡を行いながら感染症対策、利用者の健康状態に配慮した献立内容の充実等に努めました。感染防止のため昼食時にはパーティションの設置、テーブルの消毒などを行い安全な昼食提供に努めています。

7 余暇支援

休日余暇活動は休日の充実と利用者間の交流を図るために実施しています。年間計画の検討に当たっては、利用者からの希望も取り入れて企画しましたが、感染防止の関係で計画どおりに実施できませんでした。実施に当たっては事業所外での外食を避け、事業所内で距離を保ちながら食事を取るなど感染防止に努めて実施しました。

なお、ダンスや音楽などのサークル活動は感染防止のため実施できませんでした。

8 防災等の安全対策

近年の災害等が多い状況を踏まえ障がい福祉事業所として、安心できる事業づくりが求められています。定期的な避難訓練を実施し、職員、利用者の防災に対する意識を高めています。３年度は桜坂への事業所移

転もあり、火災の避難訓練を2回実施しました。今後は入居したビルに統括管理者が設置される予定であり、同じビルのGHと連携しながら防火対策に努めます。また、事業所内では移動時の転倒防止等の安全対策にも取り組む必要があります。

9 その他の取り組み

(1) 本人活動の推進

自分たちのことを自分たちで決めて行動することは、生活をより良くするために重要です。3年度はコロナ禍で全員参加の機会がありませんでした。桜坂への事業所移転後、利用者皆さんの意見を聞いて事業所運営に活かすために、アンケートを実施したところ、多くの意見や感想を伺うことができました。今後とも、利用者が自分の意見を発表する機会などを工夫する必要があります。

(2) 職員研修

事業所運営において職員の資質向上は重要課題です。事業所内では業務を通しての職場内研修（OJT）により知識や技術の修得に努めました。また外部研修は職員の経験年数や役割に応じて職員は計画的に研修会等に参加しました。職員は研修終了後、研修報告書をすみやかに作成し、職員会議等で報告し、受講した研修の振り返りと職場での情報共有に努めています。

虐待防止及び権利擁護・虐待防止研修は法人、事業所にとって重要な研修のため、法人研修は全員受講するとともに、事業所の自己点検シートなどを活用し、事業所の取り組み状況や課題を確認しました。今後とも積極的に参加とともに、職場全体の情報共有に取り組んでいく必要があります。3年度に受講した主な外部研修は表のとおりです。

令和3年度受講の主な外部研修

研修の種類	人数	主催者等
記録技術研修（実践・基礎）	2名	県社会福祉協議会

救急法研修	2 名	市社会福祉協議会
感染症予防講習	1 名	県社会福祉協議会
就労支援スキルアップ研修	1 名	障害者職業センター
就労支援・工賃向上研修	2 名	市・ふくしごと

(3) 介護等体験及び実習生等の受入

実習生等の受入は人材育成及び事業所としても利用者支援の状況等を客観的に把握することができます。3年度はコロナ禍で予定どおりの受入れが出来ませんでした。実績は保育実習(10日間)1名のみでした。

10 苦情解決

3年度は解決すべき苦情事案はありませんでした。開かれた事業所づくりの観点から努めてオープンな環境の中での利用者支援を行っています。事業所移転に際してもオープンな環境となるように施設整備を行いました。事業所の運営状況については事業所内での定期的な保護者会等が開催されないこともあり、事業所から運営状況について適宜プリント配付を通して利用者及び保護者への情報提供及び保護者との連携に努めています。

11 地域との交流及び公益的な取り組み

地域清掃などを通して地域の方に事業所を理解いただくとともに利用者が安心して通い、活動できる事業所づくりに取り組んでいます。

桜坂へ移転後も毎週、地域清掃を行うことで近隣の方との交流も始まりました。移転後は事業所近隣の2校区の人権尊重推進協議会から人権啓発の啓発品として事業所のアート商品を採用されました。

今後とも地域清掃等を通して事業所として地域に貢献する公益的な取り組みを行っていく必要があります。